

令和 2 年 8 月 3 1 日

令和元年度 特別の教育課程の実施状況等について

長野県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
野沢温泉村立野沢温泉小学校	野沢温泉村教育委員会	公

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
野沢温泉村立野沢温泉小学校	http://www.vill.nozawaonsen.nagano.jp/about/W002H0000512.html	

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

①外国語活動

- ・ 小学校第 1 ～ 2 学年において、外国語活動を継続して実施する。
- ・ 第 1、2 学年は生活科の 16 時間、17 時間をそれぞれ削減して外国語活動に充てる。

②スキー科

小学校 1 ～ 6 学年に新教科「スキー科」を新設する。

- ・ 小学校 1 学年は体育を 21 時間、生活を 7 時間削減してスキー科に充てる。また行事から 3 時間をスキー科に充当する。
- ・ 小学校 2 学年は体育を 21 時間、生活を 7 時間削減してスキー科に充てる。また行事から 3 時間をスキー科に充当する。
- ・ 小学校 3 学年は体育を 21 時間、外国語活動の時間を 7 時間削減してスキー科に充てる。また行事から 3 時間をスキー科に充当する。
- ・ 小学校 4 学年は体育を 21 時間、外国語活動の時間を 7 時間削減してスキー科に充てる。また行事から 3 時間をスキー科に充当する。
- ・ 小学校 5 学年は体育を 18 時間、総合的な学習の時間を 10 時間削減してスキー科に充てる。また行事から 3 時間をスキー科に充当する。
- ・ 小学校 6 学年は体育を 18 時間、総合的な学習の時間を 10 時間削減してスキー科に充てる。また行事から 3 時間をスキー科に充当する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

野沢温泉村は、温泉とスキーの恵みを生かした観光立村です。大正元年（1912）

にスキー場が開発されて以来、レジャースキーの拠点として名声を得てきた。平成10年（1998）長野オリンピック時にはバイアスロン会場となっただけでなく、冬季国体をはじめ各種大会を招致し、オリンピック選手も数多く輩出しています。近年は外国からもスキー、スノーボードを楽しむ人々が数多く来村し、スキー、スノーボードは本村の主要な産業です。保護者の大部分が何らかの形でスキー産業や旅館業に携わっているため、子ども達が日常で外国の方と接し、英語を活用する機会が他地域と比べて多くなっています。

このような環境にある子ども達が英語を体験的に学習し外国語活動を行うことで、積極的にコミュニケーションをしようとする意欲を高め、外国の言葉や文化に興味を持ち地域の特性を生かしたスキー活動に取り組むことを通して地域への愛着と誇りを育み、さらに村を担う人材を育成することが大いに期待できます。

（3）特例の適用開始日

①外国語 平成22年8月25日
平成31年4月1日（変更）

②スキー科 平成26年4月1日

（4）取組の期間

①外国語 平成31年4月1日から平成34年（令和4年）4月1日まで

②スキー科 平成26年4月1日から教育課程の基準によらない部分が教育課程の基準内になるように学習指導要領が改訂されるまで

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（1）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・ 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

（2）実施状況に関する特記事項

※（1）で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

（3）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・ 実施している
- ・ 実施していない

<特記事項>

毎月、保護者及び地域住民へ教育課程と幼保小中一貫教育に関する広報として「学園だより」の発行・配布及び村広報誌にスキー授業の様子などを掲載。また、学校関係者評価について集計結果を保護者へ配布。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

当村では、幼保小中一貫教育の教育目標として「ふるさと野沢温泉村を心に刻み、心を世界に拓き、心豊かな人間性を育む教育」と掲げ、小学校では「豊かな自然の中で好んで体を動かし、友だちを呼び込んで遊びをつくり、学びを楽しんでいる子ども」及び「物や事に触れて、興味・関心を呼び起こし、自ら研究し、友と共に学ぶ楽しさや喜びを見出している子ども」を願う子ども像としています。

スキーは、圧倒的な自然エネルギーによる雪を相手に行うスポーツです。豊かな自然の中に身を置き、その美しさを感じ、楽しさを見出すスキーを通してこども達は、ふるさと野沢温泉村を体感しています。また、先人が築いたスキー産業が地域の主幹産業となっている野沢温泉村は、今や世界的なスノーリゾートへ成長していることから、多くの外国人が訪れ、日常的あいさつや、コミュニケーションが外国語で行われる場面が増えています。外国語に触れる機会を増やし、将来、臆することなく世界中の人々とコミュニケーションし、新しい世界観を発見できる効果が期待でき教育目標と一致しています。

一方で、スキーの楽しさを感じつつも、少子化の影響からか、これまで多くのオリンピック選手を輩出した村であるものの、競技スキー界に進む子ども達の減少が競技レベルへの影響が懸念されています。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本特例を実施している野沢温泉小学校においては、外国語活動とスキー科の学習を実施することで、学校教育法第二章第二十一条第二項「学校内外における自然体験活動を促進し、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと」及び、同条第三項「我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」に照らして適切であると考えます。

5. 課題の改善のための取組の方向性

外国語活動をより魅力的な授業とするため、小学校へ村費による英語専科教員の配置、ALTの配置を行っている。

また、スキー科の授業が保護者の経済負担とならないよう、スキー場運営会社からスキーリフト券の無償提供、スキーヘルメットの無償提供を受けているほか、準

要保護世帯に対し、スキー学習用品とスキー部活への就学援助費の交付を実施している。その他、スキー授業に安全なスキー理論を学ぶためのコーチ派遣料などを村が負担しています。

いずれの活動も、広報誌による広報に加え、村で運営しているケーブルテレビの話題として取り上げてもらい、地域全体で学びの確保を図っています。